

平成27年度 事業報告書

(抜粋版)

特別養護老人ホーム 鵜 生 園
ケ ア セ ン タ ー 鵜 生 園

藤沢市片瀬海岸1丁目7番9号
社会福祉法人 上村鵜生会

I 社会福祉法人 上村鶴生会

1. 年次報告

- 平成27年4月1日 ○藤沢市と平成27年度の下記事業について業務委託契約を締結した。
- (1) 湘南なぎさ荘管理業務
 - (2) 緊急通報システム事業受信センター運營業務
 - (3) 徘徊高齢者SOSネットワーク事業
 - (4) 生活支援型一時入所事業
 - (5) 藤沢市包括的支援事業（藤沢市鶴沼南地域包括支援センター）
- (財)藤沢市社会福祉事業協会と藤沢市給食サービス事業について給食業務委託契約を締結
- 4月15日 藤沢市とサロン元気業務委託契約締結
- 4月18日 片瀬海岸クリーン活動
- 4月27日 藤沢市と元気はつらつ健康講座業務委託締結
- 5月15日 監事監査
- 5月23日 平成27年度第1回法人評議員会・理事会
- 6月1日 法人資産総額変更登記
- 6月12日 平成27年度第2回法人理事会
- 6月16日 新人職員防災訓練
- 6月13日 ボランティアとの連絡会（デイ・さんぽ）
- 6月15日 ホーム利用者レントゲン検査
- 7月3日 神奈川県より平成27年度老人福祉施設施設整備事業補助金交付決定を受ける
- 7月29日 藤沢市法人監査及び神奈川県特養ホーム指導監査
- 7月30日 藤沢市より藤沢市老人福祉施設施設整備費補助金交付決定を受ける
- 8月1日 開園記念祭実施
- 8月11日 藤沢市と家族介護者教室事業について業務委託契約を締結
- 9月2日 （仮称）特別養護老人ホーム関野記念鶴生園建築請負工事入札実施
株式会社門倉組が落札者となる
- 9月5日 平成27年度第3回法人理事会
- 9月9日 防災訓練（通報・避難・消火）実施
- 9月12日 荒井こと氏十回忌
- 9月16日 株式会社門倉組と（仮称）特別養護老人ホーム関野記念鶴生園建築請負契約を締結
- 9月20日 敬老会（ホーム）
- 9月30日 職員健康診断
- 10月1日 （仮称）特別養護老人ホーム関野記念鶴生園建築着工
- 10月10日 （仮称）特別養護老人ホーム関野記念鶴生園地鎮祭
- 10月3日 赤い羽根共同募金（小田急片瀬江ノ島駅にて）
- 10月13日 職員会議①、21日 職員会議②
- 10月17日 片瀬地区防災避難訓練参加（片瀬小学校集合）
- 11月2日 多田すゑ氏三回忌
- 11月6日 ボランティアとの連絡会（なぎさ荘）
- 11月14日 ボランティアとの連絡会（デイ・さんぽ）
- 11月15日 竜ノ口町内会 市内一日清掃デイ参加
- 11月29日 藤沢市内施設実践事例発表会 ホーム発表
「終わりのない答えさがし～介護拒否の強いK様との1年8ヶ月～」優秀賞受賞
- 12月2日 「介護サービス情報の公表」制度に基づく調査実施（湘南なぎさ荘）
- 12月5日 第三者委員会
- 12月5日 平成27年度第2回法人評議員会・第5回法人理事会

- 12月 8日 全体研修「からだと栄養と健康をちょっと考えてみるセミナー」
- 12月13日 餅つき大会実施

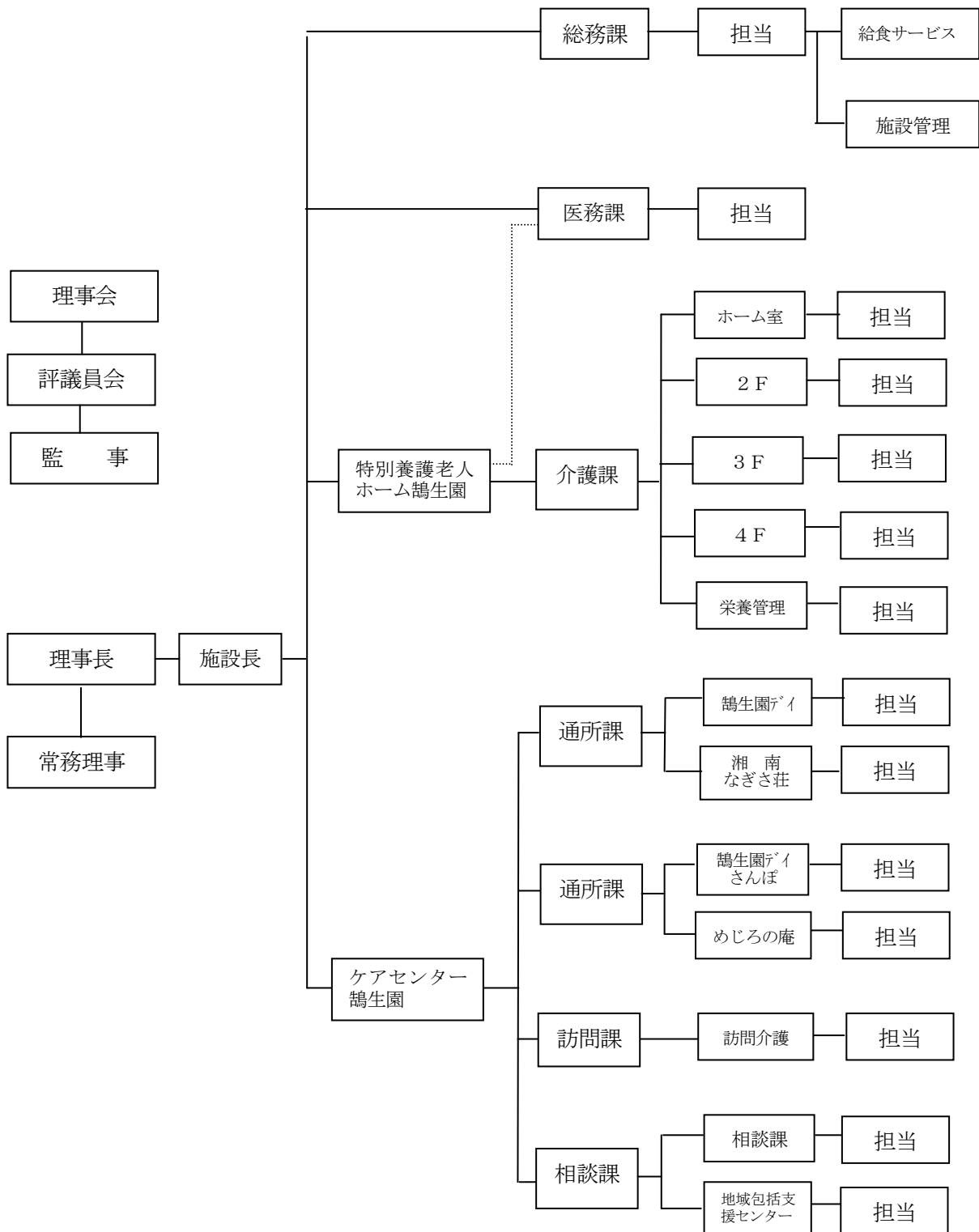
平成28年

- 1月 1日 ホーム祝膳・獅子舞
- 1月 5日 藤沢市賀詞交換会
- 1月 7日 県社会福祉協議会新年賀詞交換会
- 1月 9日 片瀬地区社協新年賀詞交換会
- 1月10日 鶴沼地区社協新年賀詞交換会
- 1月19日 「介護サービス情報の公表」制度に基づく調査実施（特別養護老人ホーム鶴生園、短期入所サービスセンター鶴生園、居宅介護支援センター鶴生園）
- 2月 6日 平成27年度第6回法人理事会
平成27年度第4回法人評議員会
平成27年度第7回法人理事会
- 2月15日 藤沢市津波避難訓練
- 2月17日 防災訓練（津波避難訓練）
- 2月19日 白鳥会親睦会
- 2月26日 緊急通報協力員会議
- 3月 1日 湘南なぎさ荘リフォームのため営業休止（～3/31）
- 3月15日 職員会議①、23日 職員会議②
- 3月18日 神奈川県・藤沢市より（仮称）特別養護老人ホーム関野記念鶴生園建築中間検査を受ける
- 3月19日 平成27年度第5回法人評議員会・第8回理事会
- 3月31日 リハビリデイサービスめじろの庵事業廃止

2. 人事（組織及び職員構成）

1) 平成27年度 社会福祉法人上村鶴生会 鶴生園 組織図

平成27年4月1日



※相談課：居宅介護支援センター・在宅介護支援センター(緊急通報システム他)

Ⅱ 特別養護老人ホーム鶴生園

1 介護課

今年度は制度改正の年で、介護保険負担割合の変更や負担限度額認定の資格見直しなど、大きな変更があった。特養部門は基本報酬が下がった分、口腔関係の加算取得を開始したことに加え、従来あった看取り介護加算、地域区分の見直しが行われたことで収益の大幅な減少にはならないよう努めた。ただし昨年と比べ入所者の入院日数が大きく増えたことで空床が増え、ショートステイで利用できなかった分は収入減となってしまった。

当施設では新規入所者の7割以上が要介護4、5の方となり、医療の必要性が高い利用者も増えている。実際今年度退所した方の中でも昼夜問わず吸引が必要なため、入院先から戻れず退所となった方や呼吸器疾患により施設に戻れずそのままお亡くなりになった方もいた。介護施設の生活と医療機関での療養とのほざ間にいる方が増えているため、家族の希望を聞き取りつつ、施設での看取りを含めて最期の場面を選択していく事が大事だと考えている。

2 医務課

昨年は転倒により大腿部頸部骨折のため2名の利用者が又、嚥下機能低下に伴う誤嚥性肺炎のため4名の利用者が入院になったため入院日数が前年度より増えています。

誤嚥性肺炎で入院された4名の内2名の利用者は痰絡みと吸引回数が多く鶴生園に戻る事が出来ず退所となりました。高齢になると全身の様々な機能が低下していきます。

その中でも食べるという事はとても大切な事ですが嚥下機能の低下に伴いむせや痰絡みなどの症状が出現してきます。痰絡みが頻繁になれば、ご本人も苦しい思いをするので食事の制限をさせて頂いています。また、夜間帯は看護師が不在のため吸引を行わなければならない利用者のご家族には痰で窒息してしまう可能性があるという事をお伝えしなければならない現状があります。

今年は、園での自然な看取りを希望される17名の方が安らかな最期をご家族とともに迎えられました。

来年は新施設が立ち上がりますので看護師の教育にも力を入れていきたいと考えます。

3. 栄養管理

季節や行事にあわせた献立を心がけていますが、毎年同じようなものになってしまう事が多くなっていました。

今年度から委託会社の責任者が変更になり、少しずつ従来のメニューを変更して目新しいメニューに変え、特に丼物や麺類が増え利用者も献立を見ながら楽しみにされているようです。

利用者の食事形態の状況は、「常食」より「ソフト食」が増えており嚥下機能に問題がある方が増えているようです。

その方たちの水分補給に利用しているゼリーの数が多くなっていて、特に甘いゼリーは喜ばれています。甘いゼリーはカロリーも多いので、体重管理の必要な方は制限が必要になります。

口腔維持加算が改正され従来より取りやすくなっているので、多職種と話し合いの結果7月より請求を開始しました。

介護報酬が下がったこともあり、出来るだけ加算をとり収入を増やしていきたいと思っております。

4 ショートステイ

ショートステイ利用者の体調不良や熱発・嘔吐などでの途中退所やキャンセルはあったがノロウイルスやインフルエンザなどの感染はなく長い期間ベッドを空けることは無かった。また、ワイズマンでの記録・情報の共有が分かりやすく出来る様になり退所連絡票にも生活状況を参照にして細かく家族へ報告できている。

利用中ケアプランを作成し注意点や本人・家族の希望を理解したうえでケアにあたるように行っているが、今後は更にケアプランの内容を細かく作成し安心して充実できる短期生活を送れるようにします。

居室のブッキングには十分配慮し、契約時の午前入所・午後入所の意図を説明し本人・家族に

理解してもらい対応できているので今後も継続していきます。また細かい入所時間や退所時間の希望が利用者により出ているので出来る限り個別の対応にも柔軟な姿勢で家族とも相談しながら対応していきたい。

Ⅲ ケアセンター 鶴生園

1 鶴生園デイサービスセンター

介護保険改正により利用単価が下がり、厳しい運営状況であった。

改正による減額を抑える為、中重度者ケア体制加算算定（平成 27 年 10 月より）。

しかし、看護師配置、要介護 3～5 ご利用者の 3 割維持が厳しく、平成 27 年 2 月末で算定を取り下げる。

また、平成 28 年度に通所課事業形態を大幅に変更。

湘南なぎさ荘デイを一般型より総合事業を見据えた予防特化型デイへ。

それに伴うご利用者、職員は鶴生園デイ、さんぼデイへ異動。

鶴生園デイだけで 30 名を超える利用者移行。

その為、平成 27 年 12 月より鶴生園デイの登録人数を 50 名へ変更。

平成 28 年 2 月で利用者の移行完了、3 月で職員の異動完了となる。

次年度は運営状態改善に向け、適切な人員体制と大規模型通所介護への算定変更が生じないよう管理を怠らず、なぎさ荘デイからの受け入れ、さんぼデイへの利用者移行を適時実施。

平成 30 年改正への情報収集を怠らず、適切な経営状況へ移れるよう準備を怠らないよう取り組みたい。

2. デイサービスさんぼ

上半期は前年度同様、複数ご利用者の施設入所や入院が相次ぎ、又、ショートステイによるキャンセルも多く稼働率は伸び悩む。

下半期は鶴生園デイの「中重度加算」導入により新規がほぼ停止。更に稼働率が低下する状態へ。

ご利用者の大半がご家族希望により週 3 日～5 日ご利用なので、入所や入院が複数重なると全体的に利用率が低下し、中止者数に依頼数が追いつかない状態となる。

又、今までの様な「出来る限り在宅」ではなく、「介護度が重くなったら施設入所」への流れが更に加速したと感じる一年でもあった。

しかし、それでも「さんぼ」でなければならぬご利用者は存在し、さんぼを利用することが在宅生活継続の支えになっていると確信している。

新年度は鶴生園デイの中重度加算取り下げ、湘南なぎさ荘の業態変更等により、新規依頼や事業所移行依頼のお声掛けも多く、順調な滑り出しを迎えられている。

引き続き、ご利用者が笑顔でお過ごし頂けるよう、そしてご家族にもご利用日は安心して心身をお休み頂けるよう誠心誠意取り組んで参ります。

3 デイサービスセンター湘南なぎさ荘

平成 27 年改正により単価減。

営業活動、複数回利用のアプローチを継続し、利用数増加を図る。

しかし、設備面の老朽化が著しく、特に浴室ボイラーの不調、照明器具の不具合等が生じ、応急修繕に追われる状況が続いた。

更に近隣に新規デイ事業所が複数開設し、老朽著しいデイでは競争力を失い、他ケアマネ事業所からの新規紹介は減少する。

そこで平成 28 年に向け、今後の総合事業を見据えた予防特化型（午前 23 名/午後 23 名）の短時間デイへ業態変更とする。

“めじろの庵、閉鎖とし、ご利用者は業態変更とする“湘南なぎさ荘”へ。

年度後半は業態変更に向けたご利用者の移行作業、新事業準備により新規受け入れ中止。

2 月→ “なぎさ荘”ご利用者の事業所移行終了

3 月→ 新事業準備期間にて営業休止

4 月→ “シニアフィットネス湘南なぎさ荘”開所

新年度は、包括/居宅と連携を取りながら“選ばれる予防型デイ”となるよう努力致します。

4 ホームヘルプサービス

年度前半は、件数減少に比べ、新規依頼数が低迷し危機感があった。後半は主に鶴生園居宅からの依頼がコンスタントにあり、年度末には収益増となった。改めて法人全体との連携をより円滑にし、迅速に対応することの重要性を感じた。

職員については、今年度も介護福祉士資格取得者が増え、サービスについてより積極的に学び、実践してゆく姿勢を持って業務にあたっている。質の高いサービス提供の統一ができることにより、信頼できる事業所として地域から評価を受けられるように努力する。

5 居宅介護支援センター

7 名体制で本年度はスタートした。5 月から 7 月にかけて上限一杯のため断ることが多かった。8 月より 1 名追加となったが、同月病気休暇に入った職員がいたため実質 1 年を通じて 7 名体制であった。8 月、9 月と件数調整のため断ることが多く、その後も減った分だけ受け入れるという上限一杯の状態が続いた。これは居宅職員の努力により近隣包括より評価を受けていること、法人職員全員の努力により鶴生園が片瀬・鶴沼地区で高評価を受けていることの現れと考えられる。

経営面では、改正後も新特定事業所加算Ⅱの体制を維持し、介護報酬単価がアップしたことも受け、プラン数と相まって増収とすることが出来た。

職員については、今年度異動、新規採用にて居宅経験が 1 年目という職員が 3 名在籍していた。新人職員をはじめ全員が質の高いケアプラン作成を維持するために教育に力を入れ、新人研修・同行訪問・毎週のケース検討・勉強会のほか、各自年 3 回以上外部研修にも参加し、プランに還元できる様努めた。新人職員も積極的に自己研鑽に勤め、利用者・事業所より良い評価を得ることが出来ている。

また、地域の中核的な居宅介護支援事業所として、困難ケースについても依頼があれば受け、法人内はもとより、他事業所や行政・包括・病院等の関連機関と連携しながら柔軟に対応し、利用者の尊厳を守りつつ支援することが出来た。

6 藤沢市鵠沼南地域包括支援センター

「いきいきサポートセンター」と「地域包括支援センター」の名称の混乱は多かれ少なかれあるものの、地域団体、住民の認知度は徐々に高くなってきている。民生委員や地域住民からの気になる高齢者の相談も増えてきている。

相談内容については虐待関係の相談が前年度に比べて多く、藤沢市高齢者支援課と連携を取りながら継続的に関わっているケースもある。経済的なこと、家族関係、暴力関係の相談件数も前年度より多くなっていて、今後は高齢者自身のことだけではなく、高齢者を取り巻く家族や環境に対する相談が一層増えていくことが予測される。

平成28年10月からスタートする、藤沢市の介護予防・日常生活支援総合事業の概要が明らかになった。事業移行の際には、利用者への説明や書類の変更などによる業務負担増、混乱が生じることも想定されるため、引き続き情報収集、準備を行っていく必要がある。

小地域ケア会議では、年度末に行った地域活動についての講演会を通じて、地域課題についても沢山の意見、希望、質問を頂くことができた。次年度は、これらをもとにいかにか、議論の展開、地域支援、ネットワークの構築をしていくかが課題である。

7 緊急通報システム

平成27年度は、新規9名、廃止6名。昨年の利用条件の緩和（NTTアナログ回線以外でも条件付きで利用可等）により、件数増であった。新規依頼理由は、独居による不安、体調や転倒等の不安などで、廃止理由は、死去2件、施設入所3件、ADL低下により電話を使用できなくなった1件となっている。

緊急通報については、転倒、心臓がバクバクする、下痢が酷い、めまい・吐き気がする、頭がクラクラする等があった。相談通報については、ペンダントの電池切れ警報が鳴っている相談、または外出等の連絡等が多かった。ボタンを押したのかわからないなどの誤報も例年通りであったがIP電話使用者に機械の誤作動（押していないのに通報になってしまう）による通報がみられたが、その都度、配線の調整や登録番号の再登録などで対応し、収束している。

利用者への定時連絡は週1回行っている。定時連絡の際、応答がないケースは外出して帰宅が遅くなってしまったり、事前の不在連絡を忘れていたりというケースがほとんどであった。

テスト通報については、今年度は9月～11月の間で職員が持ち回りですべての利用者宅を訪問し機器の動作確認、および近況の聞き取りを行っている。

協力員連絡会については、平成28年2月26日に鵠生園にて開催。協力員23名の出席が得られ、片瀬、鵠沼東、鵠沼南、各包括支援センターの担当者にも出席していただいた。

次年度も定期点検、協力員連絡会の開催との事業を調整、予定していく。

緊急時の通報、相談通報、週1回の定時安否確認の3つの柱を緊急通報システムの事業として行い、利用者が在宅生活を安心して過ごせるよう、加え協力員、民生委員、担当の包括支援センター、ケアマネージャーと連携を取りながら利用者のサポートに努めてきている。今後も、関係者、関係機関と連携しながら、それぞれの利用者の在宅生活をサポートしていく。

8 老人介護支援センター

相談事業については、いきいきサポートセンターが地域の相談事業の中核となっているが、鶴生園もまた片瀬・鶴沼地区に深く根ざした事業所として、活動を継続してきた。

市からの委託事業については、一般高齢者並びに特定高齢者の介護予防事業「サロン元気」(年18回開催)及び「家族介護者教室」(3回コース)「元気はつらつ健康講座」(2回コース)を藤沢市から受託し、講座を企画・運営してきた。開催にあたっては地域の高齢者が地域社会における活動を継続することを目指すと共に、自治体の期待に応えるべく企画・運営し、参加者の介護予防支援、自立支援を実施してきた。

鶴生園独自事業として「健康サポート」体操講座を毎月1回、定期的に開催し60才台から80才後半までの幅広い参加がある。介護予防、健康づくりとしての場として好評を得ており、参加人数は年々増加している。

片瀬地区社会福祉協議会の運営する片瀬ボランティアセンターでの介護相談窓口についても、引き続き介護の専門職のアドバイザーとして月2回対応した。また片瀬ボランティアセンターにおいては、昨年に続き片瀬包括支援センターと連携し、月1回「ミニ講話」を開催。健康や介護予防などのテーマで、毎回10人程度の参加があり好評であった。

加え片瀬地区社会福祉協議会主催の「介護者のつどい」にもファシリテーターとして参加し、片瀬地区の介護者の悩みを片瀬包括支援センターと共に伺っている。

今後共、自治体、地区の社会福祉協議会、地域包括支援センター、老人会などとの連携を密に取り、地域に密着した活動を行い、地域に貢献できる在宅支援センターとしての役割を継続していきたいと考える。

9 給食サービス

平成27年度の新規利用者が20名と前年度比6名増となった。新規の内訳については、村岡包括4件、鶴沼南包括3件、鶴沼東包括3件、片瀬包括1件の他、居宅事業所が9件となっている。また、廃止者19名の内訳としては、死亡や有料ホーム等の施設に入所される理由のほか、他介護サービス利用開始や家族援助によるため廃止となるケースであった。

総配食数は4,921件で前年度比768件減となった。上半期までは急激に配食数が低下していく中でスタッフの協力を得て、各曜日給食車を1台稼動に見直した。下半期は新規件数増と複数回利用と、休止から再開するケースとが相まって配食数は増加傾向にある。

給食をお配りするだけでなく、テーブルセット、移し替えなど各利用者状態に合わせた食事・配膳形態への対応が求められている。配食時間に制約がある中で、今後も配食状況に合わせた体制に適宜見直しをしていきたい。

10 徘徊高齢者SOSネットワーク

平成27年度末で登録者数は155名となっていて、登録者の平均年齢が82.4歳となっている。27年度中の廃止者数は18名、新規登録者数は46名となっており、登録者は藤沢市南部、北部ともに増加している。

これからも一時保護入所や確認手続きについて、関係機関と協力をし、高齢者等の生命の安全を図りたい。

IV その他活動状況

1 ボランティア活動状況

1. 事業開始（昭和49年8月）から年度別登録者数（1）と平成27年度末現在の継続活動者数（2）

年度	(1)	(2)			
		ホーム	鶴生園デイ	さんぽ	湘南なぎさ荘
昭和 50	3				
51	2				
52	0				
53	2		1		
54	0				
55	2				
56	4				
57	2				
58	3				
59	3				
60	1				
61	3				
62	6				
63	5		2		
平成元年	16		1		
2	19	1			
3	16	1			
4	36				
5	31				1
6	9				
7	8	1			
8	14				
9	17	2			
10	17	2			
11	14	2	2		
12	3	2	2		
13	26	2			1
14	36	2	3		3
15	76	18	1	1	1
16	39				1
17	31	2			
18	55	1	11	1	2
19	8	5		1	1
20	20	3	1		
21	10	2	2		2
22	12	5	2		1
23	19	4	2		2
24	14	7	2		2
25	11	4	2	1	1
26	11	13	4		
27	9	2	6	1	1
計	613	79	44	5	19

2. 平成27年度末現在の登録者状況

1) 活動者数と男女の比

活動者総数 147名	男	19名
	女	128名
	計	147名

2) 活動場所

事業所	計	男	女	26年度
ホーム	79	10	69	71
鶴生園デイ	44	4	40	42
さんぽ	5	0	5	5
なぎさ	19	5	14	21
合計	147名	19名	128名	139名

3. 平成27年度活動延べ回数

1) 特別養護老人ホーム鶴生園

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月平均
延人数	196	153	180	170	150	168	174	165	151	153	148	186	166名

2) 鶴生園デイ

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月平均
延人数	97	88	97	103	69	88	98	82	82	86	86	106	90名

3) さんぽ

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月平均
延人数	20	17	18	18	13	12	13	15	11	14	14	15	15名

4) 湘南なぎさ

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月平均
延人数	84	91	73	92	75	81	62	64	62	62	61	0	73名

2 役員・職員研修状況

月	日	日数	研修内容	参加者
4	20	1	プレゼンテーション研修	
5	18	1	認知症研修「パーソン・センタード・ケア」	
	11	3	コミュニティソーシャルワーカー研修	
	26	1	高齢協研修	
6	17	1	新人防災研修	
	15	1	高齢者介護に役立つ薬学知識	
	16	1	医学的知識と急変時対応	
	24	1	藤沢地区共同研修会（安全運転研修）	
7	4	2	認知症のBPSD（周辺症状）への理解とチームケア	
	8	1	第14回 かながわ高齢者福祉研究大会 「私、帰りますから～離設予防へのアプローチ～」	
	8	1	地域包括ケアと保健師の役割	
	8	4	かながわ高齢者福祉研究大会	
	13	1	介護記録総点検セミナー	
	24	1	対人援助技術の理解と向上	
	24	1	介護・福祉の専門職から学ぶ統合失調症の理解	
	25	1	認知症の理解と対応方法について	
	28	1	介護職のための疾病の理解と薬剤について	
8	11	1	地域包括支援センター職員等養成（初任者）研修	
	21	2	中堅職員キャリアパス対応生涯研修	
	22	1	食形態の選択・変更のタイミング	
	26	2	チームリーダーキャリアパス対応生涯研修	
	31	1	福祉事業者におけるマイナンバー制度への対応について	
9	5	1	食事の不良姿勢に有効なポジショニング	
	5	1	安全運転管理者研修	
	8	1	介護支援専門員実務従事者基礎研修	
	13	1	介護現場に役立つシーティング	
	15	1	マイナンバー制度直前セミナー	
	18	1	アサーション研修	
	19	3	高齢者虐待対応現任者研修	
	29	1	藤沢地区共同研修会（組織と人材育成）	
10	6	1	持ち上げない移乗技術	
	9	1	防災情報・体験	
	17	4	介護福祉士実習指導者講習会	
	23	1	施設における高齢者虐待の現状と対応	
	24	1	地域包括支援センター職員（現任者）研修	
	28	1	精神障害を合併した高齢者の理解と対応について	
	31	1	対人援助嘱トレーナー奥山幸子氏のスーパーヴィジョン	
	31	1	社会福祉士実習指導者講習会	

11	9	5	介護福祉士ファーストステップ研修	
	11	1	介護事業場・新規企業事業場労務管理セミナー	
	18	1	介護職が知っておきたい医学知識と薬の基礎知識	
	29	1	藤沢地区共同研修会（実践事例発表会） 「終わりのない答え探し～介護拒否の強いK様との1年8ヶ月～」	
12	2	1	苦情解決研修会	
	4	1	職員全体研修 講師：増山直子（看護師） 「からだと栄養と健康をちょっと考えてみるセミナー」	
	11	1	認知症末期・終末期におけるケアプラン	
1	6	3	2015 年前期ユニットリーダー研修	
	14	3	介護保険施設等看護研修Ⅲ	
	16	1	介護予防従事者研修会	
2	6	1	福祉従事者のための成年後見活用講座	
	17	1	大人の発達障害の理解と対応	
3	8	1	県高齢協・管理者研修	
	27	1	介護施設で「生きる」を支える看取り介護の実践	

3 実習生・見学受入れ状況

月	所属名	人員	日数	目的
5	神奈川社会福祉専門学校	2	23	施設実習Ⅱ-2
6	フィールズ	2	3	初任者研修
10	フィールズ	2	3	初任者研修

4 地域貢献事業

1. かながわライフサポート事業

平成 26 年度に同事業へ参画し、平成 27 年度は本格的に活動を開始した。平成 27 年 5 月に地域相談員となるコミュニティーソーシャルワーカー（CSW）の育成のため 2 名研修を修了している。直接、鶴生園への相談事案はなかった。10 月職員会議にて「かながわライフサポート事業」の活動主旨及び実際の事案を交えて、事業の趣旨及び法人の取り組みとして行っていくことを確認した。

5 その他

1. 平成 27 年度苦情・相談受付件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
苦情													0